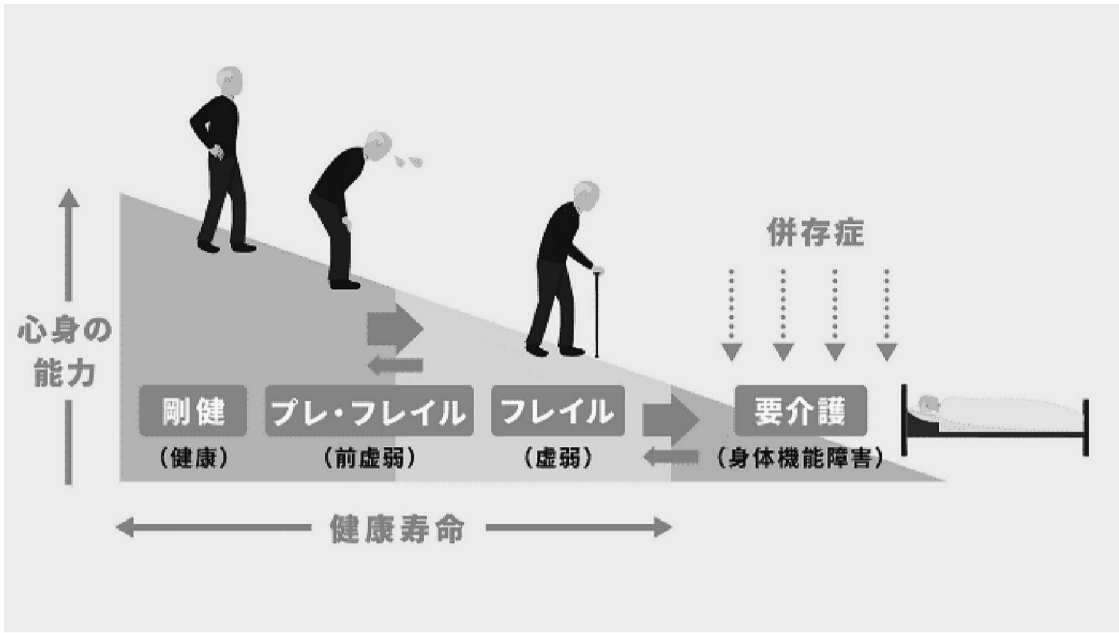


民医連  
代々木歯科コーナー  
連載



「フレイル」って何？  
— その85 — 歯科医師 監物佐米子

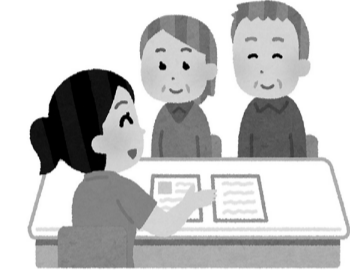


加齢とともに「疲れやすくなった」「食欲がわかなくなった」…。このような人はいませんか？ 目立った病気や怪我はしていないので周囲の人にも気づかれませんが、その状態はもしかすると「フレイル」かもしれません。実はその後に行っているのは「要介護」という状態。普段の生活を見つめなおして、「元氣だ」と思っていたのに、気がついていきました。

まずフレイルは、簡単にいうと加齢により体力や気力が弱まっている状態のことです。以前は「虚弱」や「衰弱」などとよばれていましたが、フレイルは、身体的要素のみに着目したサルコペニアやロコモティブシンドローム、精神心理的な軽度認知症、社会的問題である孤立など、散在する高齢者の問題に関する概念を一つにまとめ、高齢者の状態を全体的に把握しようとするものです。

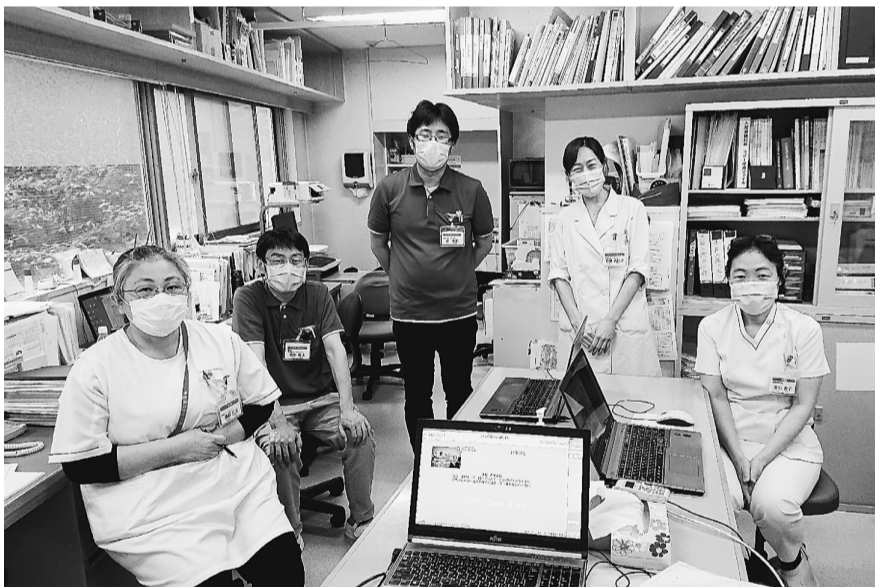
患者サポートセンター  
の事例から

患者サポートセンター 渡邊真紀子



こんにちは。代々木病院の患者サポートセンター、ソーシャルワーカー（以下SW）の渡邊と言います。患者サポートセンターには、現在、看護師2名、事務1名、SW3名が従事しており、主に近隣の救急の医療機関からの当院への入院相談を看護師が、入院された患者さんの退院支援をSWが担っています。入院されている患者さんの多くは近隣の救急病院からご紹介された方々で、お

住まいは渋谷区・新宿区の方が多く、もともと地元の方もいれば地方から上京された方、独居の方、ご家族と同居されている方など様々な方がおられます。九州出身の70代のAさんは、近隣の区で長年一人暮らしをされておりました。脳梗塞を発症されリハビリ目的で代々木病院に入院となり、リハビリを積極的に取り組んでおられました。が、麻痺が残っており一人暮らしは難しくなりました。九州のご兄弟は、今後のご本人の生活を心配され九州に戻ってきてはと勧められていました



患者サポートセンターのスタッフのみなさん。近隣の救急医療機関からの入院相談や、入院患者さんの退院支援の相談業務を担っています。筆者は右から2番目。

6月の3階渡り廊下



月に一度の模様替えの3階の渡り廊下。6月はクロード・モネの「睡蓮」、「風と共に去りぬ」のクラーク・ゲーブルの肖像画が飾られています。リハ中の患者さんとセラピストでリハビリとして作成、展示をしています。

サプリメントに頼らない生活

薬剤師 藤竿伊知郎 (外苑企画商事)



1年前の2020年6月、厚生労働省・経済産業省・消費者庁の3省庁が連名で「新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について」を発表し、物の消毒につかう薬液の指針を示しました。それを受けて、当欄でも「効果

が弱く不安定な次亜塩素酸水を使う必要はまったくありません」「物の消毒には、経済性の点でも食器用洗剤を薄めて使うことが最適です」と書きましました。

今年4月、企業からの回答が紹介されましたが責任逃れがめだちます。「肌と同じ微酸性という点、肌へのやさしさ実証済み」製品表示は「あくまでも製品を利用時にうっかり肌についてしまった場合において、その安全性を『第三者機関で確認している』という説明でございませう。手指消毒に使えるといった説明ではありません。消費者が勘違いしないようにその旨即時修正させて頂きました。このような製品は無くて結構です。



(72) ウィルス消毒に次亜塩素酸水はいらない